

# No.3 Nico Nico ニコニコ

カナダ・カルガリー出身でハンガリー、オーストラリア、エクアドル（サンタクルス島）など、各国の文化に触れてきたニコールさん。独自の感性を持つ文化コラムに出あえるかも知れません。



Despite being Canadian and coming from a land of ice and snow I love the beach and tropical weather. I blame this on my father; when I was 8 years old my dad decided to buy a house in Kauai, Hawaii. I was a lucky kid, I got to enjoy the best of both worlds; the surf and sun of hawaii and the snow and mountains of Canada. Ever since then I've been in love with the sport of surfing.?

After spending one cold winter in Canada studying at university. I decided I needed to plan my next adventure somewhere warm. I found out that I could study science with a specialization in surfing in Australia. So, I embarked to my next new home Margaret River, Western Australia.

Australia will always hold a huge place in my heart. The beaches are some of the most spectacular on this planet and the waves are powerful and so much fun. I studied meteorology, oceanography, coastal management, and event management. I lived in a tiny beach shack, woke up to the sound of the waves everyday and worked at a beautiful vineyard. I was in heaven. The Australians are a boisterous bunch and it took me time to get use to their strange accent and sense of humor, but once I did they sucked me into their culture and by the end i was begging to stay forever.

I learned a lot about the environment and realized how fragile this world we live in is. My time spent down under taught me I need to take care of what I have around me, I not only need to be able to enjoy the ocean and the waves but take care of them so that one day my children and grandchildren can enjoy surfing in clean water too.

Let's learn a few Australian expressions!

G'day mate - good day- konnichiwa

how ya going? -how are you- o genki desu ka

ta- thanks- domo

雪と氷の大地から来たカナダ人の私ですが、ビーチと熱帯性気候が大好きです。8歳の時、父がハワイ・カウアイに家を買ったからです。生まれた私はハワイの太陽とサーフィン、カナダの山と雪、という地球の両側を堪能することになりました。それ以来サーフィンに夢中です。

寒いカナダの大学で一冬を過ごして「さあ、次は暖かいところに行こう」と思いました。調べたら、オーストラリアならサーフィン科学が学べると知り、西オーストラリアのマーガレット・リバーへと向かいました。

オーストラリアという国は、私にとってこれからもずっと大きな存在です。ビーチの壮観なことは地球一で、波も力強く楽しい。ここで私は気象学、海洋学、海岸管理、イベント運営などを学びました。海岸にある小屋に住み、波の音で目覚める日々。美しいぶどう園でも働きました。天国のようでした。オーストラリア人は騒々しくて陽気。発音はおかしいし、ユーモアのセンスにも慣れるのには時間がかかりました。でもいったん慣れるとその文化に引き込まれ、最後には一生ここにいたい、と思うほどでした。

環境について学ぶことも多く、私たちの住むこの地球がいかに危ういか気づかされました。オーストラリアで過ごしたおかげで、今あるものを大切にすることも学びました。自分だけでなく、将来、自分の子孫がこのきれいな海でサーフィンができるように気をつけていく必要があると思います。

オーストラリアの表現を学びましょう！

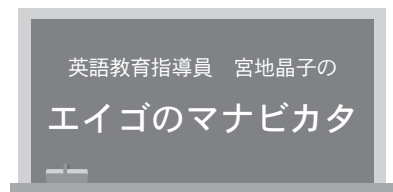
(訳：宮地晶子)

## 【ちょっと豆知識】

ニコールさんは上のコラムの文中、オーストラリアを「down under」と呼んでいます。これは、英国人が自分たちから見て地球の裏側、真下にあるこの土地をそう呼んだのが始まりです。もう一つのニックネームがAussie（オージー、またはオースイー）です。これは国そのものとオーストラリア人両方の意味で使われます。そういえば日本では、豪州産牛肉のことを「オージー・ビーフ」と言っていますね。ところがこの言葉、実は「オージー」と発音するととんでもない意味になります（ここでは書けません）。「オージービーフ」と発音しましょう。

JFA (日本サッカー協会) 杯の敗因だということです。サッカー界でも言語力低下が問題になっていることしかもそれが2006年W杯の敗因だということです。さらに驚いたのは、サッカー界でも言語力低下が問題になっていることしかもそれが2006年W杯の敗因だということです。さらに驚いたのは、サッカー界でも言語力低下が問題になっていることしかもそれが2006年W杯の敗因だということです。

生徒「先生、ワーク」。先生「ワークがどうしたの?」。生徒「ワーク出しに来ました」。先生「はい、よろしい」。中学校の職員室ではこんなやりとりがしょっちゅうです。先日テレビで言語力の低下を取り上げていました。番組の冒頭は面接試験を受ける若者の映像です。その若者は、準備した答えならばすらすら言えるのですが、想定外の質問にはまったく答えられません。



第67回

## 言葉を使って伝える力

家庭でも出来ることとして、単語だけで済まそうとする子供の言葉を受けて文章で返事をする(まさに中学校で先生方がやっていること)、小さい子に読み聞かせをし続けることが必要だそう。10年後には単語力が倍になり、理論的に語れるようになるという事です。ここは一つ、お父さんも子供の事前「メシ」「風呂」「寝る」は止めて、お母さんと会話しましょう。

最近「読み書きそろばんも大事だけれど、これからは自分で考え、それを伝える力が必要」という講演を聴きました。

日本人はもとも、言葉に出してコミュニケーションすることが苦手です。加えてコンビニ、携帯電話の普及で、単語だけで事足りる世の中になりました。よほど意識していないと、自分の考えを口にする機会は減るばかりです。